



国際ロータリー第2500地区第3分区

Asahikawa Morning Rotary Club

# 旭川モーニングロータリークラブ会報



ホームページ

<http://www.asahikawamrc.com/>

第1118例会 № 32

3月の月間テーマ

水と衛生月間

平成29年3月16日（木） PM6:30~7:30

本日の例会プログラム

クラブ研修

場所 アートホテル旭川 15F MINORI

## 会長の時間 花園空港プロジェクトについて 河崎 高麗男 会長



先週の例会、ギャラリー・シーズ久木さんのゲストスピーチ、皆さん如何でしたでしょうか。何も無いと言われる旭川に芸術の街として多くの芸術品が市内に飾られ旭川の素晴らしさを堪能、散策をさせて頂き感動致しました。

さて本日は、皆さんから、今、問題提起を頂いて居ります花園空港プロジェクトについて会長より近況を報告してほしいとの声を受け報告したいと思えます。この花園空港プロジェクトについては、2016~17年度のクラブ活動計画書に会長方針として地域社会の活性化での奉仕活動事業【花園の旭川空港】をめざして「ロータリー財団100年を記念して」他団体と提携事業提案を推進すると載せて居ります。又、奉仕プロジェクト委員会の活動方針として計画されております。石川奉仕プロジェクト委員長と共に打ち合わせをしながら、皆さんにもRI2500地区第3分区奉仕プロジェクト委員会ロータリー財団100年を記念しての計画案を提示、私と石川奉仕プロジェクト委員長、小川幹事より報告させて頂いて居りますが、改めて報告させて頂きます。

このプロジェクトはロータリーが力を入れている6つの重点分野の中の【経済と地域社会の発展】にあたり、世界に2つとない『道北の玄関口 旭川空港を花園空港にしよう』プロジェクトを計画、ロータリー財団100年を記念しての計画案をガバナー公式訪問クラブ協議会で石川奉仕プロジェクト委員長より報告されています。

その後、第1回7月第3分区会長幹事会に『道北の玄関口『旭川空港を花園空港にしよう』プロジェクトを計画、長期のプロジェクトではあるが夢を実現するためにとロータリー財団100年を記念して取り組むのは如何かと計画書を提示提案させて頂きました。第2回目9月第3分区会長幹事会でプロジェクトの承認を頂けるなら各クラブより1名の委員を選出頂き委員会を立ち上げたく次回の幹事会までクラブで検討をと提案した。その後11月の第3回会長幹事会に置いて提唱クラブで実行委員会を立ち上げ、予算や事業工程の見える化をして提案をするようにとの意見が有り、当クラブ内花園空港プロジェクト実行委員会を立ち上げました。将来官民一体となるボランティア協議会のような組織を作り目指していることも有り、石川委員長も旭川市や東神楽町など関係機関にも接触、第3分区RCが一丸と成って取り組むのであれば予算付けをしても良いとの話も有り太田ガバナー補佐にも経過説明をさせて頂きました。

その後12月の第3分区幹事会で分区内RC統一しての事業は総論賛成各論反対と不可と成りMRCで実行するようにとの結論により大変小川幹事が責められ大変な思いをされた事にあり、私の思いやりの無さで申し訳なく思っています。

1月の第4回会長幹事会に置いて小川幹事より第3分区事業の提案を取り下げMRCとして2年後をめどに検討して行く事を表明。会長の時間その後皆さんにこのプロジェクトをどう取り組んで行くかのアンケートを取らせて頂きました。その結果事業縮小してでも当MRCで実行してはどうかとの意見が約80%近くあり皆さんの意見も尊重しながら、この事業が素晴らしいとの反響も有り市観光協会や管内観光協会もこのプロジェクトをベースの協議会の設置も検討されているようですのでMRCとして積極的に加わって行きたいと考えています。

又今スタートとした空港前の緑地をとの提案が有るが国際空港ターミナルの建設が始まりターミナル完成に焦点を当てMRC実行委員会で2年後実施を検討続けて行く事としています。

以上報告を終わります。



## ニコニコボックス ご芳志者名簿 親睦委員会 木村 和哉 委員長

### 笹川 和廣 会員

我がモーニングRCの未来の為に闊達なオリエンテーションになります様に。



## モーニングRC 出席報告 職業奉仕委員会 井上 雄樹 委員長

\* 本日の出席 第1118回例会 総員 27名 3月16日 出席 20名 出席率 74.07%

\* 修正出席 3月2日休会のため、修正出席はございません。

\* ビジター 旭川RC 3名 旭川北RC 1名  
旭川南RC 1名 旭川東北RC 1名

\* メークアップ 3月4,5日 河崎 高麗男 (地区研修センター)  
3月10日 井上 雄樹・脇坂慎一(旭川RC)  
3月14日 飯塚 達夫・木村和哉(旭川西RC)



## 第2回オリエンテーション会員研修委員会 笹川和廣 委員長

本日は、第2回オリエンテーションに多数のご参加を頂き誠に有難うございます。今回は「ロータリーの基礎」の後半を基にする予定でしたが、この際、チャーターメンバー始め現在在籍されているモーニングRCの皆様が、「明るく楽しいクラブづくり」に貢献されていますが、本日のオリエンテーションでほんの少し立ち止まり、現在を見つめて未来に繋げるため「これから何をすべきか！」を問いかけ合う機会になればと考えました。

そこで、本日の心構えを「モーニングRCに参加することが本業発展のエネルギーにもなり、その結果、職業奉仕そして社会奉仕につながっていることを確認し、お互いの経験や知識を交流し合しましょう！」と致しました。

本日は、私笹川が司会をつとめさせていただきますが、高見会員組織委員長のご挨拶に続き、武田社会奉仕委員長と石川奉仕プロジェクト委員長のお二人から話題提供を頂いた後に、参加者全員によるディスカッションを頂き、今後への発展的な道筋にして頂きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

ここで、また受け売りではございますが、今日のオリエンテーションに参考になる内容ではないかとも思い紹介させていただきます。

先月2月9日の例会で、旭川市の表副市長より「難問解決に向かう姿勢」についてのゲストスピーチを実体験を基にお話し頂きました。

まず、何事にも「具体的な目標」を立てて、一生懸命取り組むべきと考えます。

私は色々な企画を立てる担当をしていますが、旭川市で、「日本全国のまつり」を集めたイベントを企画しようと思い、東京のイベント会社に相談しましたが、一カ所や二カ所でも大変だが、「日本全国のまつりを」同時にと言うのは不可能だと断られました。

その後、各県を直接訪問し「旭川市に居住している郷土の人たちが、出身地の祭りを待っています」と伝えた処、当方の日程に合わせ殆どが気持ちよく参加して下さいました。

という感銘を受けるお話を頂いた上、今朝の「明るい雰囲気例会」に参加させて頂き、有難うございましたとお言葉を頂きました。

オリエンテーション終了後、当ホテルでの懇親会と二次会も準備しておりますので、多数のご参加を宜しくお願い致します。



社会人の生き方で個人と社会の繋がり、支え合う人間関係について、人々が社会人として繋がるのに大切な対話について、人間は言葉を持つ動物です。対話し合う中で社会を支えていくことが出来るのです。対話とは話す人がいて聞く人がいて対応し合う事で一方的な指示や伝達だけでは成り立ちません。学校教育の段階から生徒同士、先生と生徒の間で信頼し合い、希望を持っていくことが重要になり、それを基礎に社会的な議論が成り立つ様に発展させて対話を続けられれば、物事を解決する新しいものが必ず生まれます。

対話がない社会で得をするのは、社会を思うように動かしたい権力者です。「戦争・暴力の反対語は平和ではなく対話と考える様になった」とも書かれています。対話が続いている間は殴り合いは起こらないとも書いています。

考えてみると平和～平穏な生活を支えているのは暴力的な衝突にならない様対話し続けている人々の姿勢なのです。

元々人間は生まれたばかりの幼児に話しかける時を皮切りに、感情のこもった理性的、人間的な言葉で対話しているが、最近はそのが欠けている事が多いと言っています。トランプ大統領、安倍晋三首相らの発言などにそう感じませんか？民主主義は人と人が本当に対話できる社会であるかどうかにかかっていると言えます。

又、社会を見つめる軸として文学から経済へと基点を考えますと、文字はいわば「人間とはなんぞや」を考え、その人間が経済に振り向かされていると思います。

神様は人間をわざと不完全に作り、なぜかと言うと完全な人間ばかりだとお互いに助け合う人間関係が出来ないからです。

人間は足りない所を助け合う事で友人ができ、お互いに補う事で良い社会になりいいクラブが出来あがるのです。なぜか現代人は外面的には人づきあいが良さそうでも内心では警戒心が強くあるいは自分が傷つく事を恐れ、他人の目を気にして開放的になれないのではないのでしょうか。

自然にありのままがいいと思うのに、子供の時から日本の社会がありのままを許さない為か。

人付き合いに疲れてしまうのでは、人間は困っている人や不幸な人を助けた時、本当の喜びを感じるのではないのでしょうか。そして社会の方でも何十年もかけて育てた若者の能力を活かす事ができないという大きな損失を生んでいます。働かなく所得もなければ税金も払えないから財政収入も減り、社会保険料も払えないから年金基金も医療保険も破綻寸前。結婚できなければ少子社会になる。住宅も買えないし内需はしぼむ

(社会人に慣れない人となる) (就職という言葉にふさわしい就職率は2011年～2014年平均62%)

その人間が経済に振り回されている経済とは人間味の無い分野とも言える。

そんな中で出会ったのが統計学者エルンスト・エンゲルの「**本当の国力とは国民生活の福祉水準にある**」という考えです。

以来、国民生活の福祉と個人の自由に寄付するのが経済ではないのでしょうか。

大企業が利益を上げて企業内に内部留保としても蓄積され設備投資や労働者社員の賃金アップに使われることはほとんどないと言っても過言では無いと思います。

財務省「法人企業統計調査」によれば2015年9月、金融保険を除く資本金10億円以上の約5000社の内部留保合計金額は300兆円に上るといふ。その反対に国税庁「民間給与実態統計調査」によれば2015年の平均給与は363万9000円で2005年の390万3000円に比べ26万4000円下がってます。

(35～39歳の年収では580万から505万に75万下がっています。)

厚生省「国民生活基礎調査」は年間所得が112万円以下しかない貧困率が10年、16%まで上昇し、**子供の貧困率は15.7%に達している。日本の子どもの貧困率はユニセフの2013年発表によると14.9%で先進国中、悪い方から9番目です。**子供の貧困率が急速に上昇したのは労働者の雇用条件が悪化した90年代からで、親の貧困が子供の貧困にそのまま直結し特に母子破産などのひとり親世帯の貧困率は50.8%となり、現在保護受給者は210万人を超え(世帯数では152万8000世帯)その数は加速的に増えていきます。

社会全体に余裕がなくなってきていて他人に寄り添ってあげる余力が小さくなっている時代でジリ貧は目に見えているのに、目先の問題ばかりに問題に焦点を向け全く改善される兆しはありません。他人との繋がりは勿論大切なのですが『絆(きずな)＝絆(ほど)し』をもう一度考えおこそうではありませんか。

人間は共に考えながら対話というコミュニケーションの中でこそ発達していく動物。

「対話は日常の中にあります。特に多様な欲望が混然としている市場社会では対話によって、取り返しつかぬ断絶が起こるのを未然に防いでいる」と思います。

人間の原動力は対話＝(話し合い)であり人間の特権ですし、財産です。

対話の持つ価値に気付いていきましょう。

豊かさ引き換えに失ったものをもう一度考え直さないといけないと思います。

(岩波新書 著者 暉峻淑子さん 社会人の生き方 の文庫より一部参考にしました)



